

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

平成24年 7月～9月 実績

平成24年 10月～12月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井北、福井東、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 164企業（回答率99.4%）
6. 調査対象期間 平成24年7～9月期実績及び平成24年10～12月期見通し
7. 調査時点 平成24年9月1日（土）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.2%	100.0%
建設業	24	14.6%	24	14.6%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	31.1%	100.0%
サービス業	52	31.5%	51	31.1%	98.1%
合計	165	100.0%	164	100.0%	99.4%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合から＜減少・低下・悪化＞の割合を差し引いた値で、＜景気動向指数＞を表しています。DI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

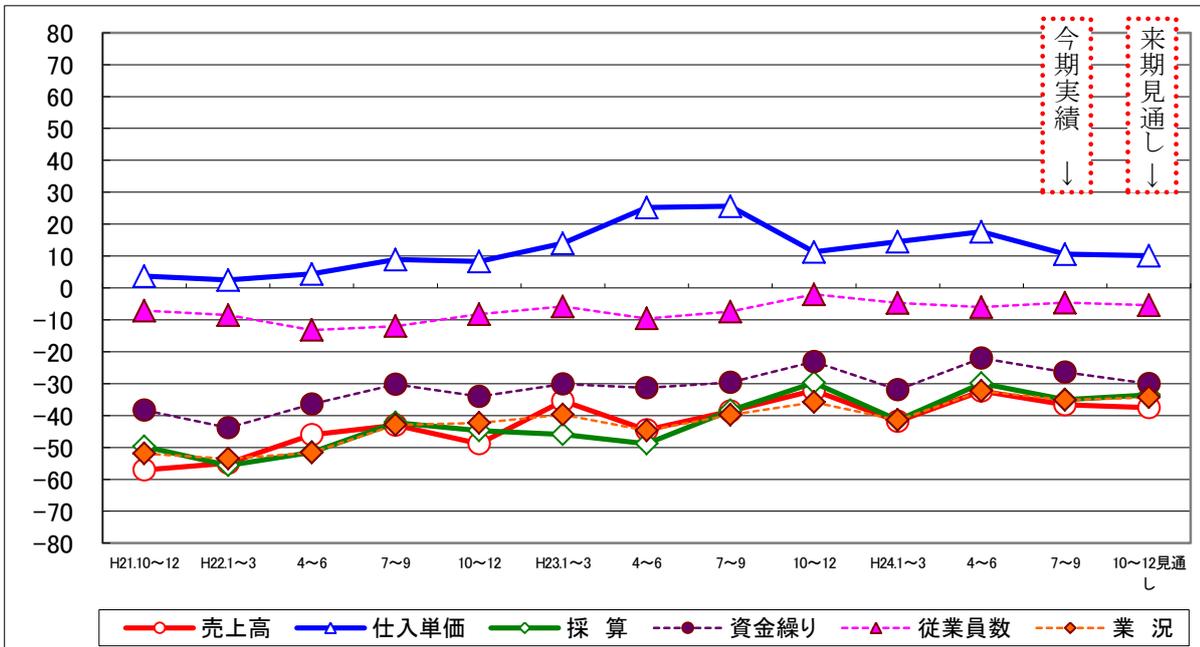
$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

10. 分析執筆者 福井県立大学地域経済研究所 教授 南保勝氏

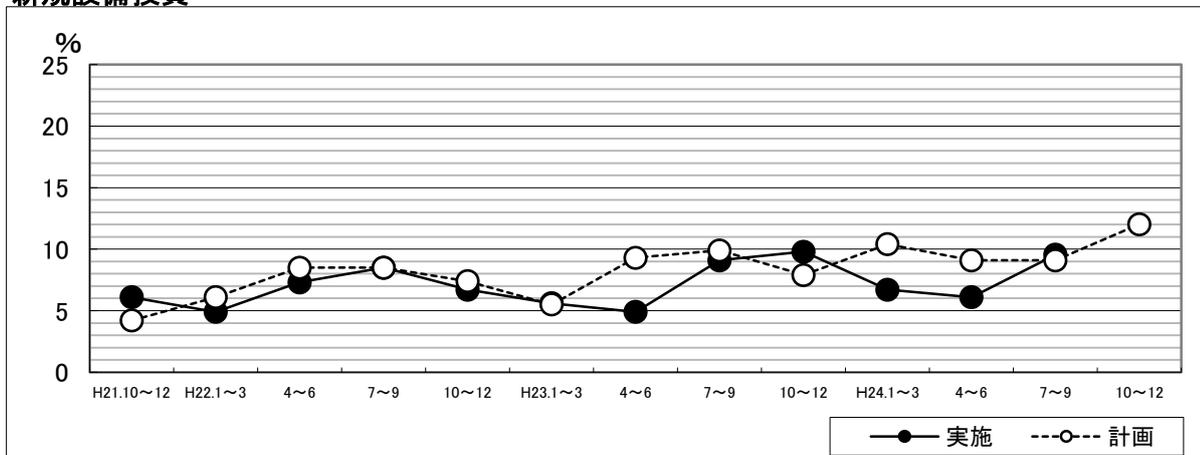
全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向推移(前年同期比:DI値)

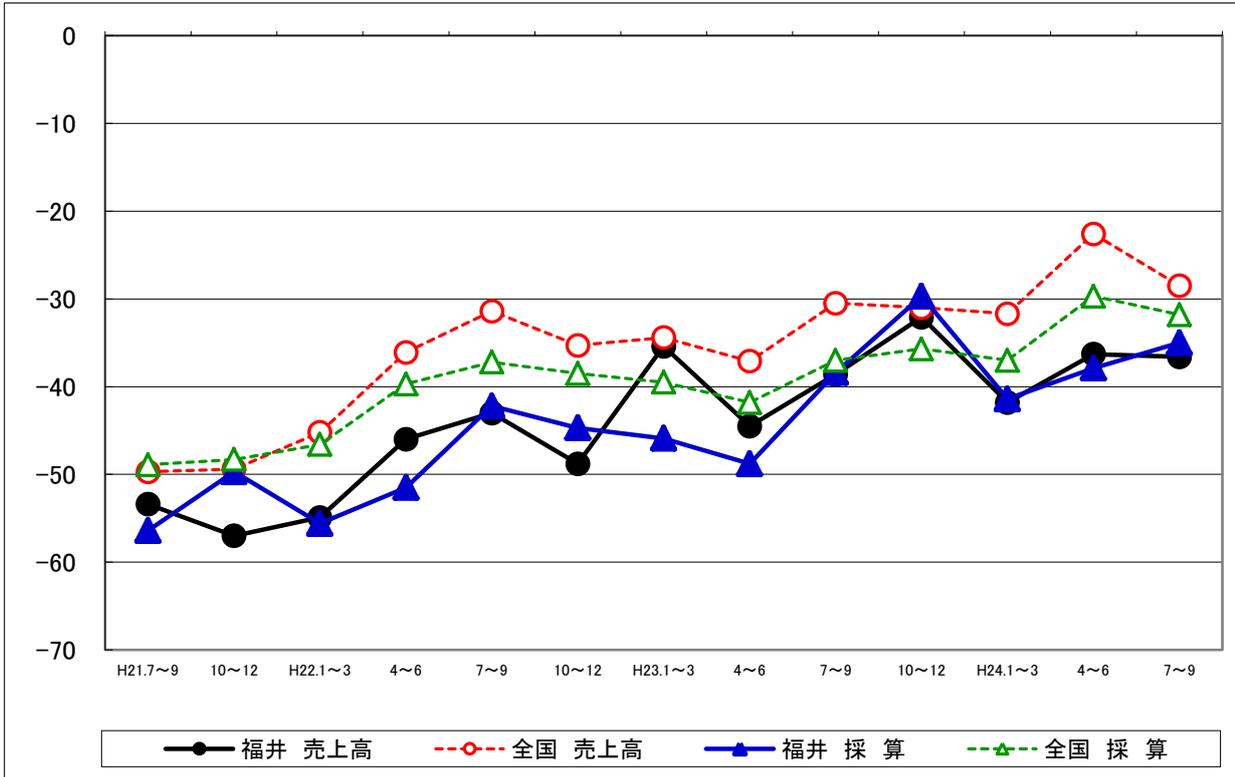
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H21.10~12	▲ 57.0	3.7	▲ 49.7	▲ 38.3	▲ 7.1	▲ 51.9
H22.1~3	▲ 54.9	2.5	▲ 55.6	▲ 43.8	▲ 8.5	▲ 53.5
4~6	▲ 46.0	4.4	▲ 51.5	▲ 36.4	▲ 13.2	▲ 51.6
7~9	▲ 43.0	8.9	▲ 42.2	▲ 30.2	▲ 12.0	▲ 42.9
10~12	▲ 48.8	8.3	▲ 44.7	▲ 34.0	▲ 8.2	▲ 42.3
H23.1~3	▲ 35.4	14.0	▲ 45.9	▲ 30.1	▲ 5.8	▲ 39.7
4~6	▲ 44.5	25.2	▲ 48.8	▲ 31.3	▲ 9.6	▲ 44.7
7~9	▲ 38.6	25.6	▲ 38.4	▲ 29.6	▲ 7.4	▲ 39.8
10~12	▲ 32.1	11.3	▲ 29.7	▲ 23.1	▲ 2.0	▲ 35.8
H24.1~3	▲ 41.8	14.5	▲ 41.4	▲ 31.9	▲ 4.7	▲ 41.4
4~6	▲ 32.3	17.6	▲ 29.9	▲ 22.0	▲ 6.0	▲ 32.3
7~9	▲ 36.6	10.6	▲ 35.0	▲ 26.4	▲ 4.6	▲ 35.1
10~12見通し	▲ 37.5	10.1	▲ 33.5	▲ 30.0	▲ 5.4	▲ 34.3



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

平成24年7-9月期の日本経済を概観すると、国内では震災復興需要が堅調ながら、世界経済の減速による外需の低迷などにより、景気は下振れの様相を強めている。ちなみに、企業部門では、輸出が米国向けで改善しているものの、横ばいの中国向けや減少基調が続く欧州向けに改善がみられず停滞感を強めているほか、8月の鉱工業生産指数も▲1.3%と2か月連続の低下となった。こうした中、9月に発表した日銀短観では、大企業製造業の業況判断DIが▲3%と3四半期ぶりに悪化している。また、家計部門もエコカー補助金の終了や景況悪化により消費マインドが低下している。

一方、福井県経済（7-9月期）については、生産面で繊維、眼鏡枠の地場産業で弱い動きがみられるものの、電子部品・デバイス、化学等を中心に回復傾向を維持。個人消費も、家電販売や大型店で不調ながら、季節品需要を中心に底堅い動きを継続している。

こうした中、今期（H24年7-9月期）の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中2項目で改善、4項目で悪化傾向を示した。ちなみに、改善項目は、仕入単価（逆指数）が前回調査（H24年4-6月期）の17.6から今期10.6へ、従業員数が前期▲6.0から今期▲4.6へと改善。悪化項目は、売上高が前期▲32.3から今期▲36.6へ、採算が前期▲29.9から今期▲35.0へ、資金繰りが前期▲22.0から今期▲26.4へ、業況が前期▲32.3から今期▲35.1へと悪化した。今後（H24年10-12月期）の見通しについては、仕入単価、採算、業況の3項目で改善予測となっており、現状よりやや持ち直しへと向かうことが期待される。

また、売上高と採算につき、そのDI値を全国と比較すると、売上高は全国（▲22.6→▲28.5）、福井県（▲36.3→▲36.6）ともに悪化しているものの、採算は、全国（▲29.7→▲31.8）の悪化に対し、福井県（▲37.9→▲35.0）は改善している。しかしその水準は、両項目とも福井県が低い。

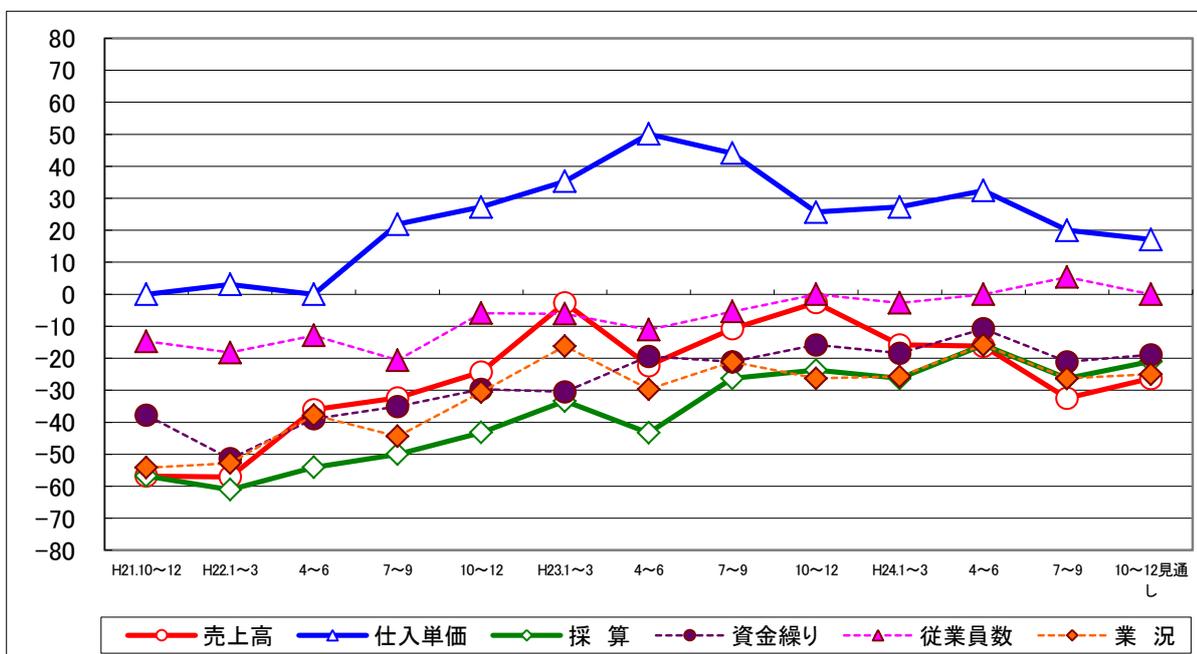
一方、今期の新規設備投資実施状況については、計画9.1%に対して実施が9.6%となったほか、先行き（H24年10-12月期）についても12.0%の企業が計画しており、多少ながら増加が期待される。

ただ、本調査は、中国等の反日ムードが発生する以前の調査であり、その影響を考慮していない。従って、ここで述べる全体の景況及びこれから述べる業種別景況について、その調査結果に同事件のマイナス影響を加味することが必要と思われる。

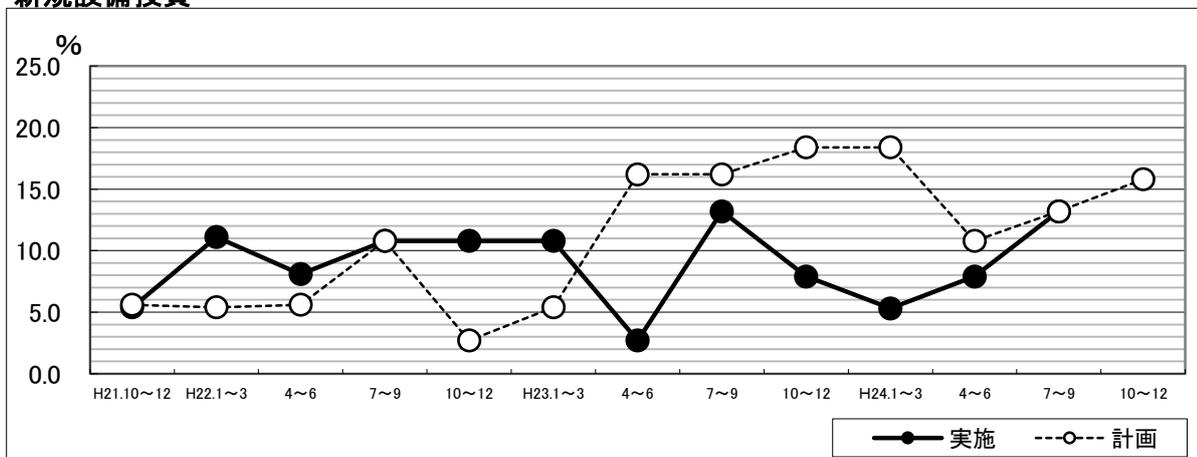
製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

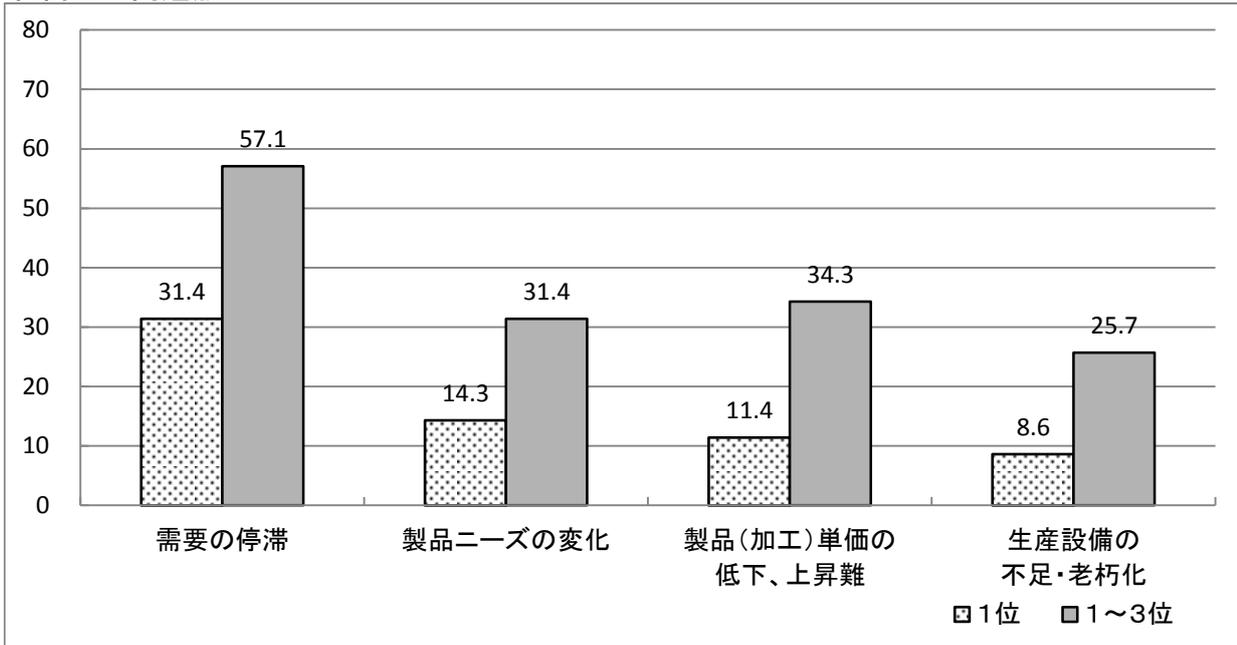
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H21.10~12	▲ 56.8	0.0	▲ 56.8	▲ 37.8	▲ 14.7	▲ 54.2
H22.1~3	▲ 57.1	3.1	▲ 61.1	▲ 51.4	▲ 18.2	▲ 52.8
4~6	▲ 36.1	0.0	▲ 54.1	▲ 38.9	▲ 12.9	▲ 37.8
7~9	▲ 32.4	21.9	▲ 50.0	▲ 35.1	▲ 20.6	▲ 44.4
10~12	▲ 24.3	27.3	▲ 43.2	▲ 29.7	▲ 5.9	▲ 30.6
H23.1~3	▲ 2.7	35.3	▲ 33.4	▲ 30.5	▲ 6.1	▲ 16.2
4~6	▲ 22.3	50.1	▲ 43.3	▲ 19.4	▲ 11.1	▲ 29.7
7~9	▲ 10.8	44.1	▲ 26.3	▲ 21.1	▲ 5.4	▲ 21.1
10~12	▲ 2.6	25.7	▲ 23.7	▲ 15.8	0.0	▲ 26.3
H24.1~3	▲ 15.8	27.3	▲ 26.3	▲ 18.4	▲ 2.7	▲ 25.7
4~6	▲ 16.2	32.4	▲ 15.8	▲ 10.8	0.0	▲ 15.8
7~9	▲ 32.5	20.0	▲ 26.3	▲ 21.1	5.4	▲ 26.3
10~12見通し	▲ 26.3	17.1	▲ 21.0	▲ 18.9	0.0	▲ 25.0



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・震災復興需要といわれるが、あまり西日本地区には感じられない。
- ・毎年毎年、1か月1か月、目まぐるしく状況が変化する。今までの経験も全く役に立たないため人員確保、仕事の受注とも計画を立てるのが難しい。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、繊維工業の衣料分野や眼鏡枠工業などで低調な生産が続いているほか、一般機械などでも減速感がみられる。しかし、自動車関連の繊維資材分野や、電子部品・デバイス（自動車、携帯電話）が順調に推移しているほか、化学工業も医薬品、化粧品分野を中心に、また、プラスチック工業も建築部材などで順調な生産を維持するなど、業種間でばらつきを伴いつつも、総じてみれば堅調な生産・出荷状況を維持している。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、2項目で改善、4項目で悪化となった。ちなみに、改善項目は、仕入単価（逆指数）（前期32.4→今期20.0）、従業員数（前期0.0→今期5.4）、悪化項目は、売上高（前期▲16.2→今期▲32.5）、採算（前期▲15.8→今期▲26.3）、資金繰り（前期▲10.8→今期▲21.1）、業況（前期▲15.8→今期▲26.3）であった。また、先行き（H24年10-12月期）については、従業員数を除く5項目で改善予測となっている。

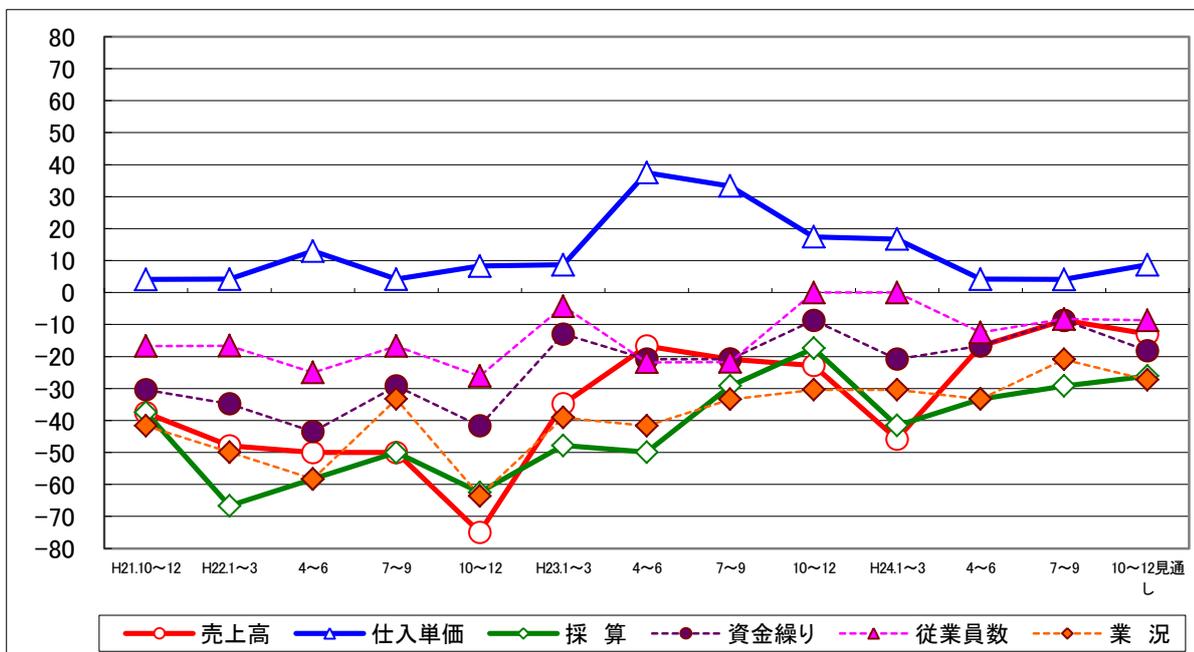
一方、今期の新規設備投資実施状況については、計画13.2%に対し、実施が13.2%とほぼ計画通りの実施状況となったほか、先行き（H24年10-12月期）についてもさらに増加（15.8%）が期待される。

その他、経営上の問題点については、前期に引き続き「需要の停滞」を指摘する企業が多く、1位に挙げた企業ウエイトが31.4%、1位～3位までに挙げた企業ウエイトも57.1%を占めている。次いで、「製品ニーズの変化」への指摘が、1位に挙げた企業ウエイト14.3%、1位～3位までに挙げた企業ウエイト31.4%と続いている。その他、「製品（加工）単価の低下、上昇難」については、1位～3位までに挙げた企業ウエイトが34.3%と「製品ニーズの変化」を上回るウエイトとなっている。

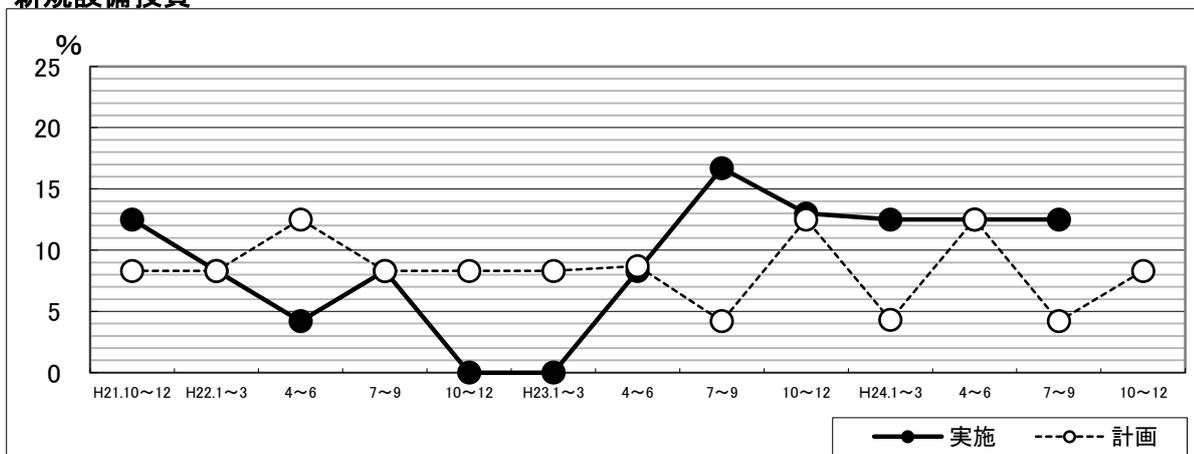
建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

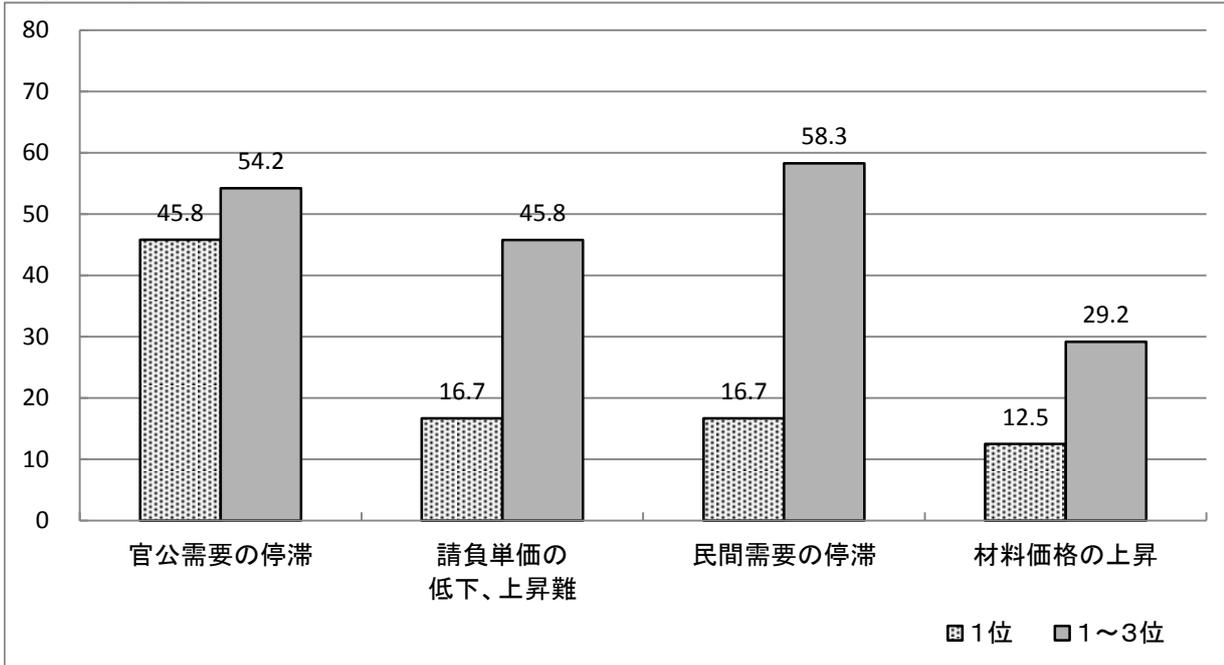
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H21.10~12	▲ 37.6	4.1	▲ 37.5	▲ 30.4	▲ 16.7	▲ 41.7
H22.1~3	▲ 47.9	4.2	▲ 66.7	▲ 34.8	▲ 16.6	▲ 49.9
4~6	▲ 50.0	13.0	▲ 58.3	▲ 43.5	▲ 25.0	▲ 58.3
7~9	▲ 50.0	4.2	▲ 50.0	▲ 29.2	▲ 16.7	▲ 33.3
10~12	▲ 75.0	8.3	▲ 62.5	▲ 41.7	▲ 26.1	▲ 63.6
H23.1~3	▲ 34.8	8.7	▲ 47.8	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 39.1
4~6	▲ 16.7	37.5	▲ 49.9	▲ 20.8	▲ 21.8	▲ 41.7
7~9	▲ 20.8	33.3	▲ 29.2	▲ 20.8	▲ 21.7	▲ 33.4
10~12	▲ 22.8	17.4	▲ 17.4	▲ 8.7	0.0	▲ 30.4
H24.1~3	▲ 45.8	16.7	▲ 41.6	▲ 20.8	0.0	▲ 30.4
4~6	▲ 16.7	4.2	▲ 33.3	▲ 16.6	▲ 12.5	▲ 33.3
7~9	▲ 8.7	4.1	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 8.3	▲ 20.9
10~12見通し	▲ 13.0	8.7	▲ 26.1	▲ 18.2	▲ 8.7	▲ 27.3



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・ 請負単価の低下。
- ・ 今年度目標にしていた工事については、受注できたのですが、資材等の上昇により採算が取れない状況で、非常に厳しくなっており、今後の受注見込みもなく不安な状況に変わりない。

建設業の景況

福井県内における平成24年4-9月期の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は、累計で689.50億円の前年同期比14.9%増、発注件数でも同1,830件の前年同期比13.2%の増加となった。ちなみに発注者別では、国家工事が61.80億円の前年同期比22.2%減と前年実績を大きく下回っているものの、県関連工事（222.96億円の同11.3%増）、独立行政法人関連工事（178.41億円の同61.2%増）などでは前年同期の実績を上回っている。一方、住宅投資については、4-7月累計で、前年同期比5.8%減の1,378戸となっている。利用関係別では、持家がほぼ前年並み（同0.7%減）の974戸、貸家が同22.7%減の370戸であった。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目全てが改善傾向を示している。ちなみに、各項目の指数をみると、売上高が前期▲16.7→今期▲8.7へ、仕入単価（逆指数）が前期4.2→今期4.1へ、採算が前期▲33.3→今期▲29.2へ、資金繰りが前期▲16.6→今期▲8.7へ、従業員数が前期▲12.5→今期▲8.3へ、業況が前期▲33.3→今期▲20.9へと改善が進んだ。しかし、先行き（H24年10-12月期）については、採算を除いて残り5項目が悪化予測となった。

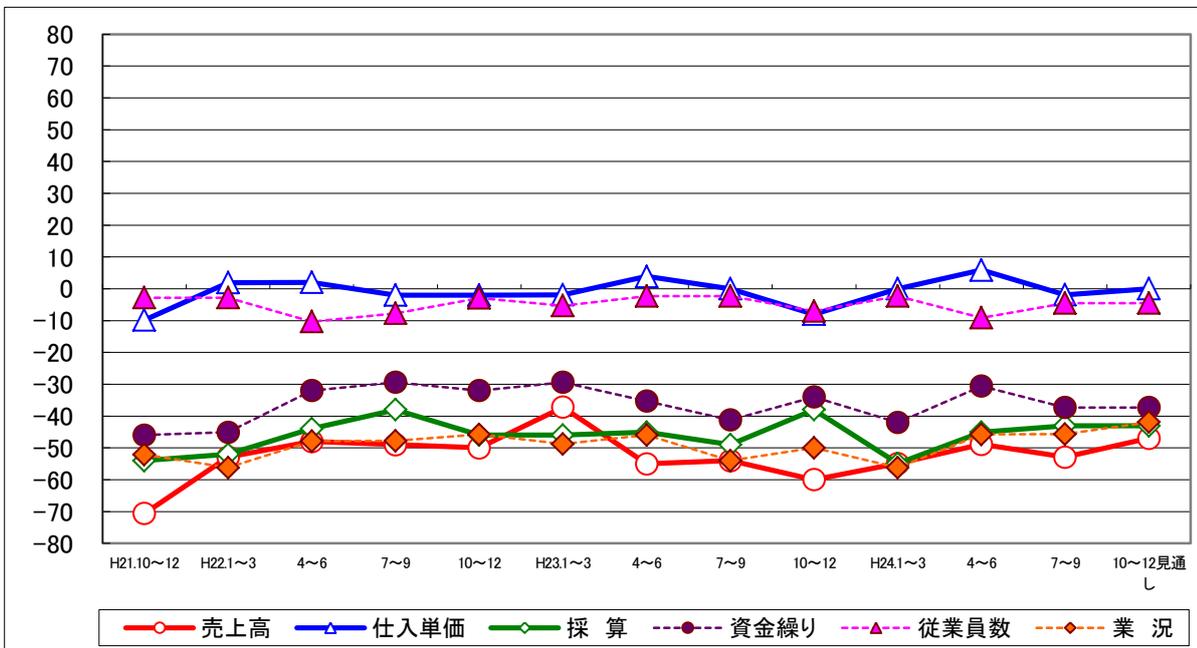
一方、新規設備投資については、計画の4.2%に対し、実施が12.5%と、実施が計画を大きく上回った。また、来期（H24年10-12月期見通し）についても8.3%の企業が何らかの投資を計画している。

最後に、経営上の問題点については、これまで同様、「官公需要の停滞」を指摘する回答が最も多く、1位に挙げた企業ウエイトが45.8%、1位～3位に挙げた企業も54.2%に達した。また、「民間需要の停滞」については、1位に上げた企業ウエイトは16.7%と少ないものの、1位～3位に挙げた企業ウエイトでは58.3%となり最も高い水準にある。その他、「請負単価の低下・上昇難」への指摘も、1位に挙げた企業ウエイトが16.7%、1位～3位に挙げた企業ウエイトが45.8%となっている。

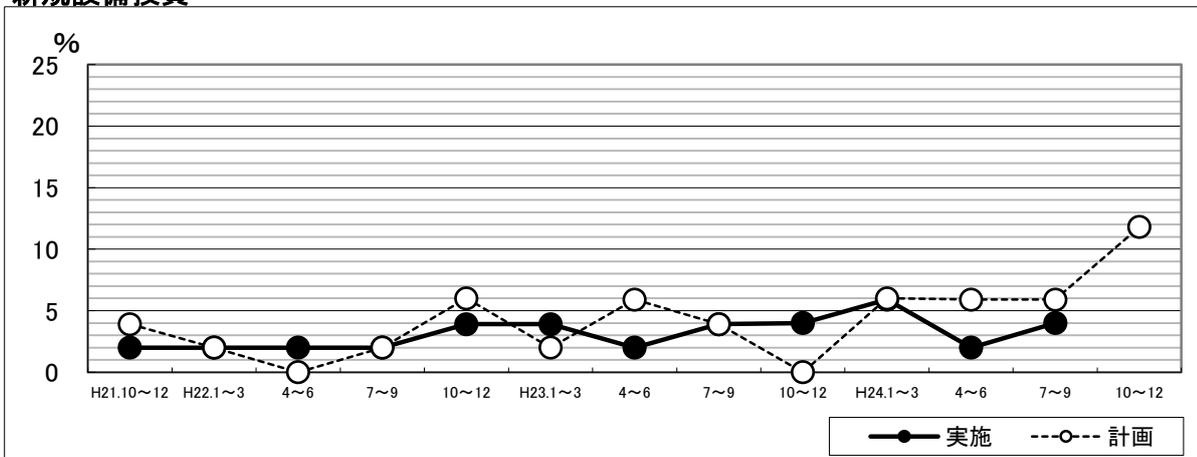
小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

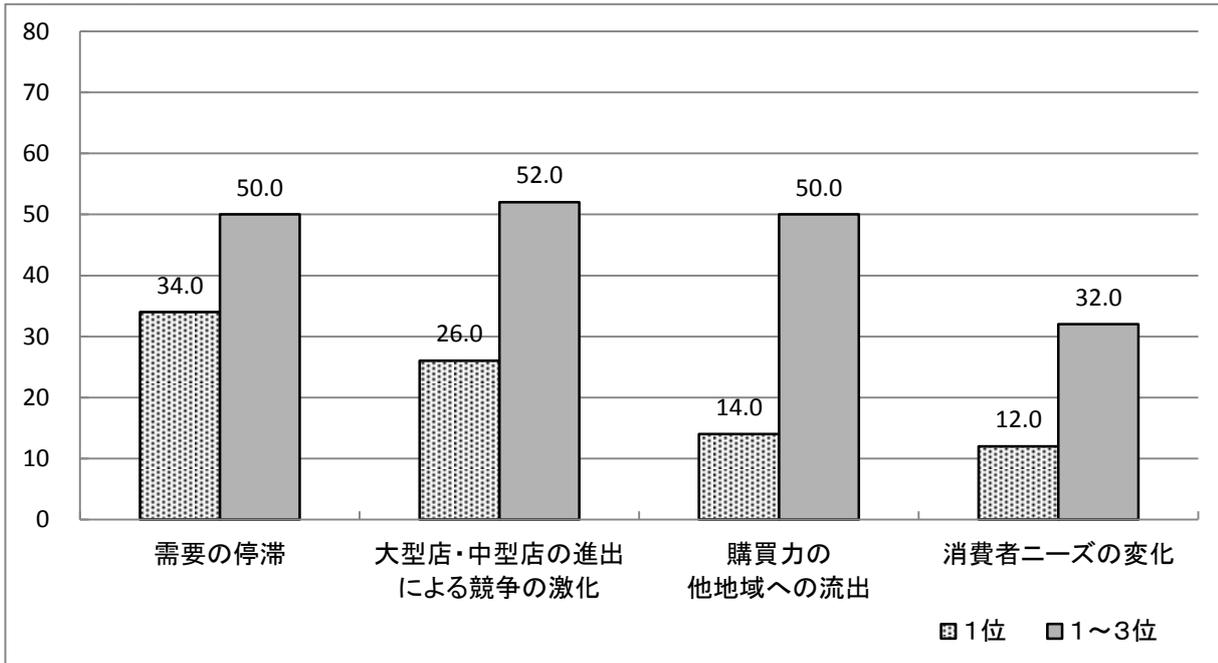
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H21.10~12	▲ 70.6	▲ 9.8	▲ 54.0	▲ 46.0	▲ 2.8	▲ 52.1
H22.1~3	▲ 52.9	1.9	▲ 52.0	▲ 45.1	▲ 2.8	▲ 56.2
4~6	▲ 48.0	2.0	▲ 44.0	▲ 32.0	▲ 10.3	▲ 47.9
7~9	▲ 49.0	▲ 2.0	▲ 38.0	▲ 29.4	▲ 7.7	▲ 47.8
10~12	▲ 50.0	▲ 2.0	▲ 46.0	▲ 32.0	▲ 2.9	▲ 45.8
H23.1~3	▲ 37.2	▲ 1.9	▲ 46.0	▲ 29.4	▲ 5.3	▲ 48.8
4~6	▲ 55.0	3.9	▲ 45.1	▲ 35.3	▲ 2.3	▲ 46.0
7~9	▲ 54.0	0.0	▲ 49.0	▲ 41.2	▲ 2.3	▲ 54.0
10~12	▲ 60.0	▲ 8.0	▲ 38.0	▲ 34.0	▲ 7.0	▲ 50.0
H24.1~3	▲ 54.9	0.0	▲ 54.9	▲ 42.0	▲ 2.3	▲ 56.2
4~6	▲ 48.9	5.9	▲ 45.1	▲ 30.6	▲ 9.1	▲ 45.8
7~9	▲ 52.9	▲ 1.9	▲ 43.1	▲ 37.3	▲ 4.5	▲ 45.7
10~12見通し	▲ 47.0	0.0	▲ 43.1	▲ 37.3	▲ 4.5	▲ 41.9



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・季節的な人の動きについては、予想以上に風評的なイメージによってマイナスの効果を起こした。今後はより日頃の地域の方々をより強く意識し、基礎となる売上を大きくしていかなければならない。
- ・私達2人だけではとても大型店にはたちうちできない。年を取りすぎました。

小売業の景況

近畿経済産業局が発表した平成24年の県内大型小売店販売額推移（百貨店＋スーパー）をみると、全店ベースで7月が前年同月比7.1%減の58.46億円、8月が同0.8%減の58.68億円と前年割れが続いている。ただ、品目別で見ると、家電品販売が大型TVを中心に大幅減少していることから苦戦を強いられているものの、8月中旬以降の猛暑により盛夏商品（涼感医療、寝具、清涼飲料、ビール等）の販売が急増したほか、高額品にも動きがみられ、個人消費全体としては横ばいで推移している。ただ、今後の情勢として、エコカー補助金の終了、中国の反日デモなどによる輸出の減退、それに伴う生産悪化などから、消費マインド自体も低下することが懸念される。

こうした状況下、今回の景況調査では、6項目のDI値のうち4項目で改善、2項目が悪化を示した。ちなみに、改善した項目をみると、仕入単価（逆指数）が前期の5.9から今期▲1.9へ、採算が前期▲45.1から今期▲43.1へ、従業員数が前期▲9.1から今期▲4.5へ、業況が前期▲45.8から今期▲45.7へと、低水準ながら改善している。また、悪化項目は、売上高で前期▲48.9から今期▲52.9へ、資金繰りも前期▲30.6から今期▲37.3へ悪化が進んだ。一方、今後の見通し（H24年10-12月期）については、仕入れ単価（逆指数）の悪化を除いて、売上高、業況の2項目で改善予測、採算、資金繰り、従業員数の3項目で横ばいとなっており、年末にかけての大きな変化はみられない。

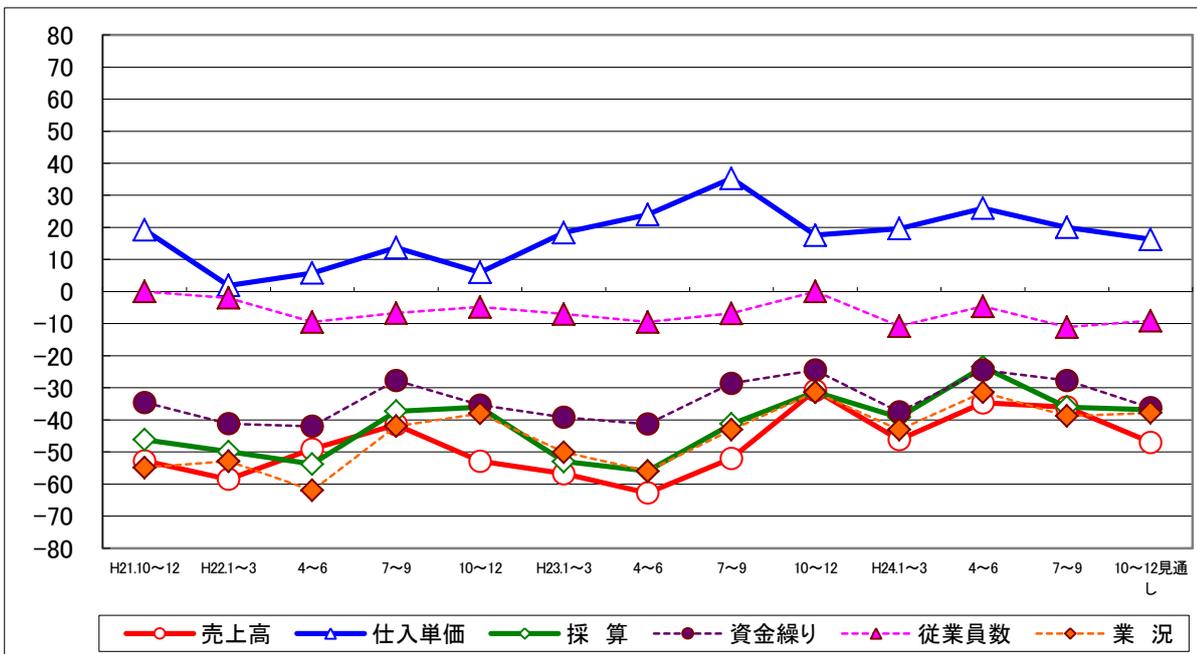
一方、新規設備投資については、計画5.9%に対し実施が4.0%と、実施が計画を下回ったものの、来期の計画については11.8%の企業で計画が予定されている。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」への指摘で1位に指摘する企業ウエイトが最も高く34.0%を占め、1位～3位に指摘する企業ウエイトも50.0%みられた。次いで、「大型店・中型店の進出による競争の激化」で1位に指摘する企業ウエイトが26.0%、1位～3位に指摘する企業ウエイトも52.0%を占めている。その他、「購買力の他地域への流出」（1位に指摘した企業ウエイト14.0%、1位～3位の企業ウエイト50.0%）、「消費者ニーズの変化」（1位に指摘した企業ウエイト12.0%、1位～3位の企業ウエイト32.0%）の指摘と比較的少ない。

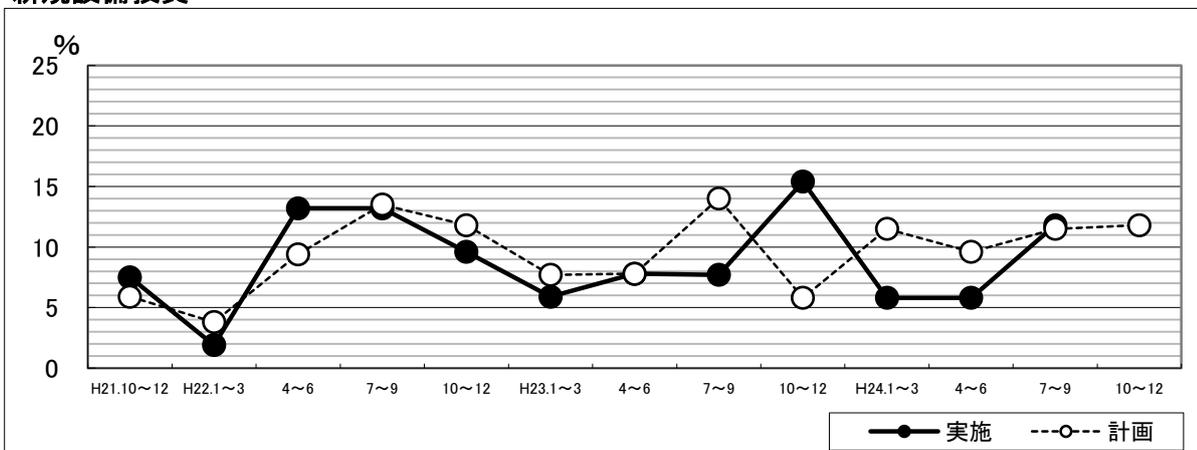
サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

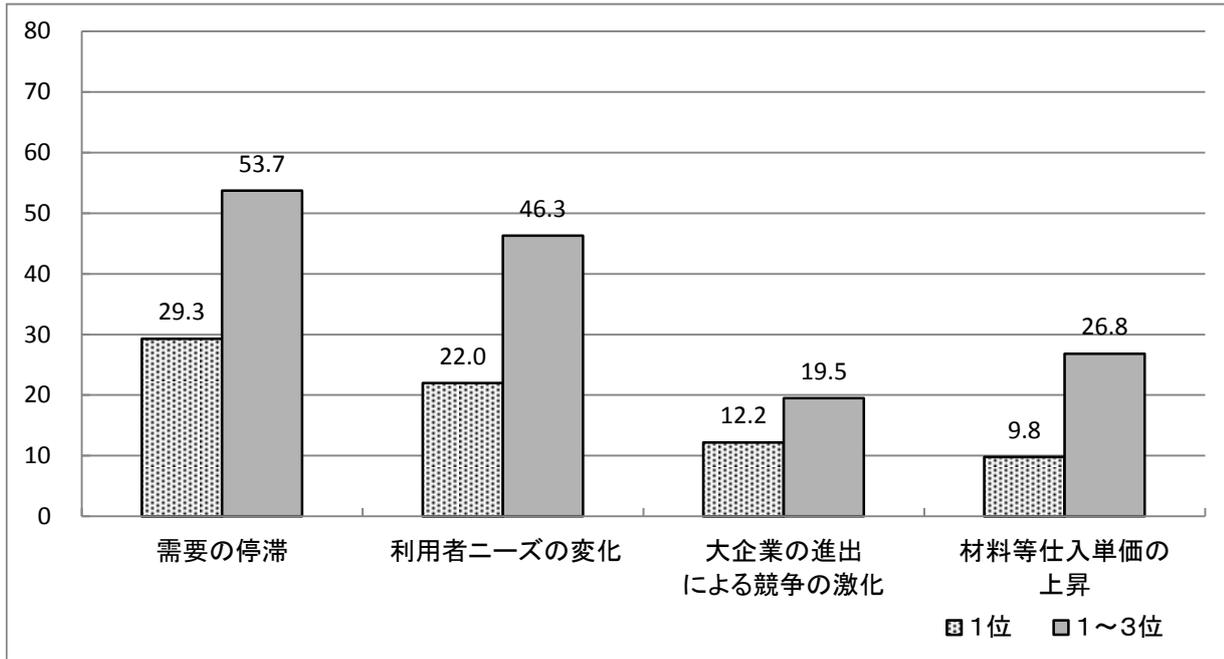
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H21.10~12	▲ 52.8	19.2	▲ 46.2	▲ 34.6	0.0	▲ 54.9
H22.1~3	▲ 58.5	1.9	▲ 49.9	▲ 41.2	▲ 2.0	▲ 52.9
4~6	▲ 49.1	5.8	▲ 53.8	▲ 42.0	▲ 9.5	▲ 62.0
7~9	▲ 41.5	13.7	▲ 37.3	▲ 27.7	▲ 6.7	▲ 42.0
10~12	▲ 52.9	6.0	▲ 36.0	▲ 35.4	▲ 4.8	▲ 38.0
H23.1~3	▲ 56.8	18.4	▲ 53.0	▲ 39.2	▲ 7.0	▲ 50.1
4~6	▲ 62.8	24.0	▲ 56.0	▲ 41.3	▲ 9.5	▲ 56.0
7~9	▲ 52.0	35.3	▲ 41.3	▲ 28.6	▲ 6.8	▲ 43.1
10~12	▲ 30.8	17.6	▲ 31.3	▲ 24.5	0.0	▲ 31.4
H24.1~3	▲ 46.2	19.6	▲ 39.2	▲ 37.5	▲ 10.8	▲ 43.1
4~6	▲ 34.7	26.0	▲ 23.5	▲ 24.5	▲ 4.6	▲ 31.4
7~9	▲ 36.0	20.0	▲ 36.0	▲ 27.7	▲ 11.1	▲ 38.8
10~12見通し	▲ 47.0	16.3	▲ 36.8	▲ 36.2	▲ 9.1	▲ 37.8



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

・高齢化のため今後は売上を伸ばすことが難しい。
・昨年度から止まっていた発電所の影響が今期になって出始めている。しかし、あらかじめ分かっていた事なので、今年度いっぱいはいは我慢するしか方法はない。来年度からは少しずつ仕事が増えていくだろう。

サービス業の景況

経済産業省が毎月公表する7月の第3次産業活動指数（季節調整値、2005年＝100）をみると、総合で98.7、前月比▲0.8%と3か月ぶりの低下となった。この要因は、飲食料品卸や金融商品の取引などが振るわなかったことによる。

業種別にみると、卸売・小売業、運輸・郵便業、金融・保険業、生活関連サービス・娯楽業、その他サービス業（公務等を除く）、宿泊業・飲食サービス業、学習支援業、複合サービス事業の8業種で低下。電気・ガス・熱供給・水道業、不動産業・物品賃貸業、情報通信業、学術研究・専門・技術サービス業、医療・福祉の5業種で上昇している。

こうした中、今回の景況調査では、DI値6項目中、仕入単価（逆指数）を除く5項目で悪化傾向を示している。ちなみに、前期と今期を比較すると、売上高（▲34.7→▲36.0）、仕入単価（逆指数）（26.0→20.0）、採算（▲23.5→▲36.0）、資金繰り（▲24.5→▲27.7）、従業員数（▲4.6→▲11.1）、業況（▲31.4→▲38.8）となっている。ただ、先行き（H24年10-12月期）については、仕入単価（逆指数）、従業員数、業況の3項目で改善予測がみられ、僅かながら持ち直しが期待できる。

一方、新規設備投資については、計画11.5%に対し実施が11.8%と、ほぼ計画通りの実績となった。また、先行きについても11.8%の企業で何らかの投資を計画しており、今後も横ばいで推移することが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」への回答が、1位に指摘した企業ウエイト29.3%、1位～3位までに指摘した企業ウエイト53.7%と高い水準となったほか、「利用者ニーズの変化」への指摘も、1位に指摘した企業ウエイト22.0%、1位～3位に指摘した企業ウエイト46.3%を占めている。その他、「大企業の進出による競争激化」（1位に指摘した企業ウエイト12.2%、1位～3位までに指摘した企業ウエイト19.5%）、「材料等仕入れ単価の上昇」（1位に指摘した企業ウエイト9.8%、1位～3位までに指摘した企業ウエイト26.8%）への指摘もみられる。

全国・福井景気動向 平成24年7月～9月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～-100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 28.5	15.3	▲ 31.8	▲ 21.7	▲ 3.3	▲ 28.8
	製造業						
	DI値	▲ 23.2	21.9	▲ 25.9	▲ 19.6	▲ 0.4	▲ 24.1
	建設業						
	DI値	▲ 10.3	22.1	▲ 25.4	▲ 14.8	▲ 4.0	▲ 15.9
	小売業						
	DI値	▲ 44.2	2.2	▲ 40.5	▲ 28.4	▲ 3.9	▲ 40.8
	サービス業						
	DI値	▲ 27.2	19.5	▲ 31.3	▲ 20.6	▲ 4.5	▲ 27.7
福井	全体						
	DI値	▲ 36.6	10.6	▲ 35.0	▲ 26.4	▲ 4.6	▲ 35.1
	製造業						
	DI値	▲ 32.5	20.0	▲ 26.3	▲ 21.1	5.4	▲ 26.3
	建設業						
	DI値	▲ 8.7	4.1	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 8.3	▲ 20.9
	小売業						
	DI値	▲ 52.9	▲ 1.9	▲ 43.1	▲ 37.3	▲ 4.5	▲ 45.7
サービス業							
DI値	▲ 36.0	20.0	▲ 36.0	▲ 27.7	▲ 11.1	▲ 38.8	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。